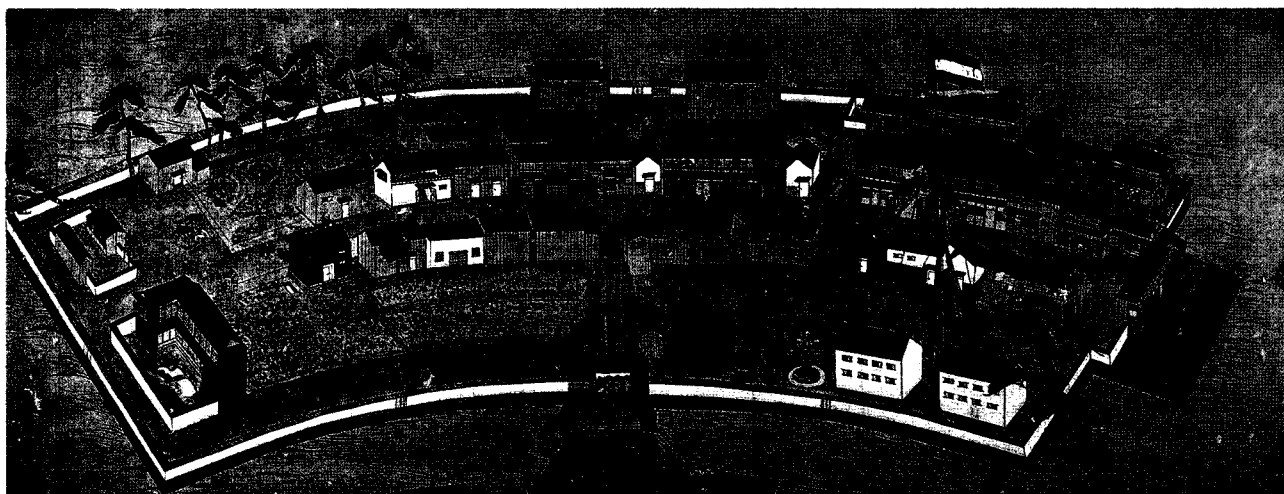




THE BULLETIN OF THE NAGASAKI UNIVERSITY LIBRARY

No.87

図書館ニュース

2002年(平成14年)12月25日

目次

あなたの読書のタイプとレベルは?!	1~6
長崎大学附属図書館協賛「国際古写真研究学会」(於 ノリッジ・イギリス) 報告	7~9
図書館サービスプラン	10~11
外部評価の実施	12
分館からのお知らせ	12
データベースの紹介に街へ出る	13
平成14年度後期図書館ガイダンス	14
インターンシップの受入	14
長崎大学オープン・キャンパスにともなう図書館の公開	14
高等学校PTA見学会	14
平成14年度大学図書館職員長期研修報告	15
人事異動・図書館日誌	16



あなたの読書のタイプとレベルは?!

附属図書館長 安河内 義 己

2002年・平成14年度の後期も残り少なくなりました。前回(長崎大学附属図書館報No. 85)は

あなたの図書館活用レベルは?!
の点検をお勧めしました。その後の進展の様子はいかが?

今回は、いっそうの甲斐ある大学生<生き方を学んで大人となる>生活の日々となりますことを念じ、

あなたの読書のタイプとレベルは?!
点検をお勧めします。
古今東西の読書論を一瞥するまでもなく、読書

のタイプにいろいろあることは、また読書のレベルにいろいろあることは、すでにあなたが実感されているとおります。ここでは、学部生・院生みなさんの読書の様子を見ていて、筆者なりに整理した次の6つの読書のタイプとレベルを提示いたします。

タイプ1・つんどく型……………レベル1

タイプ2・キャッチャーミット型

……………レベル2

タイプ3・砂時計型……………レベル3

タイプ4・冷蔵庫型……………レベル4

タイプ5・味噌漉し型……………レベル5

タイプ6・シェイカー型……………レベル6

さて、あなたの読書生活はどのタイプ、どのレベルにあるのでしょうか。

タイプ1・つんどく型……………レベル1

様 態

文字どおり積んで置くだけ。だが、まるっきり読まないのではない。読んでいのである。書名は。もしかしたら著者名、あるいは出版社名も。しかし、今は、読まないのである。だが、そのうち読む、かもしれないのである。

方 法

頁は繰らない。しかし、中身をチラリと覗き見することは、していないでもない。この覗き見も読みの一法。

効 用

読書に三行半を突きつけられないでいる状態。エンジンは掛かっているが、ギアはニュートラル。読書生活と絶縁したところからのスタートは大変だが、エンジンは冷えきっていないのでその分が楽。こうして明日への望みを捨てないでいると、己が人生を日々好日とすることが可。

レベル

これまで積ん読はけなされてきた。積まれた書はいつ手にしてもらえるか、ひたすら待ち続けるしかない。待つて待つて、ひょっとしたらあの世で陽の目を見させてもらえるのかもしれないのだ。積ん読はゼロレベルの読みではない。

タイプ2・キャッチャーミット型

……………レベル2

様 態

どんなボール（書）でも受け止める。しかし、手元には何も残らない。すぐ返球してしまうので。素早く読んで素早く文章内容・情報内容を理解・認知。そして素早く次の捕球（読書）行動に移行する。

方 法

ストレート（報道文）・カーブ（説明・解説文）・スライダー（評論）・フォーク（論文）などと、球種（文種・文体）に応じた捕球術（読書法）を駆使した速読法を採る。

① 斜め読み

1行1行を視野に入れるところからスタートするが、すぐに2行が、そして3、4行が一度に視野に入ってくるようになる。そうすると縦書きであれば右上から左下へ、横書きであれば左上から右下に向かって、斜めに数回目を走らせれば1頁が読めるとなる。

② 飛ばし読み

i 段落ヘッド読み

行が変わった1行の頭（ヘッド）から5～10文字ほどを読んだら、次の段落の1行目へと目を移す。そのうちに2つから3つの段落の頭が一度に見えてくるようになる。そうすると①「斜め読み」よりもスピードはアップする。

ii キーワード読み

1頁中からキーワードだけを抜き出して読む。キーワードを抜き出すには、最初のうちは①「斜め読み」や②・i「段落ヘッド読み」のお世話にならざるをえないが、そのうちにキーワードが文章中からひとりでにパッパッと踊り出してくるようになる。そうすると「飛ばし読み」は「ぶっ飛ばし読み」の佳境に入る。

③ カメラアイ読み

1頁を一瞥して脳カメラに写し撮る読み。読むというより見るに近い。慣れてくると見開き頁（ということは2頁）を一度に写し撮ること

ができるようになる。こうなると岩波新書も30分間で読破が可。

効 用

多量で多様な情報受信向きの読み。速読は、読者に、何のために、何を読むかを決定せよ、と迫る。情報受信するにその目的・その目標が明確でないと、速読はできないからである。例えば、③「カメラアイ読み」の有効性がよく実感できるのは、自分の構築した論理のオリジナル性を打診し確認するという目的・目標があるとき。なぜなら、論文を公表するとなれば、先行論文のできるかぎりの点検を短時日のうちに完了させることが迫られるので。そういうわけで、このタイプ2「キャッチャーミット型」読みは、情報のよき受信者となる力量を育てることとなる。

また、博覧強記に通じる読みともなる。

ただし「キャッチャーミット型」が有効なのは、伝達の論理によって構築された情報の受信に際してであって、虚構の論理による文学作品や文芸作品を愛でるには不適。

レベル

学生諸君にまず身につけて欲しいのがこのレベル。軽薄にして雑読乱読と眉顰められようが構うことない。貪欲な読書欲のままに情報世界を涉猟しよう。そのエネルギーこそが宝。そんな早読みで内容の確かな理解と認知が得られるかという人がある。それは速読体験なき人の言。速読は速くなればなるほど集中力はアップ、アドレナリンの分泌は促され、ドーパミンが脳を活性化する。よって、返って研ぎ込まれた理解・認知の獲得となる。

このレベルの読みが始まるとレベル1「つんどく型」は無くなるか、否である。積ん読の量はますます大となる。

タイプ3・砂時計型……………レベル3

様 相

砂時計の砂が上から下にそっくり移動するように、発信された情報をできるだけそのまま忠実に受信する読み。主観的読みに対して客観的読みといってもよいが、純粋に客観的ということはありません。そこで、

できるだけ受信者の思い入れを封じ込め、早とちりや誤解、曲解に陥ることを極力警戒しつつ読む。

方 法

まず「砂時計型」の読みに値する本や文献に出会うことが肝要。そのためにはタイプ2「キャッチャーミット型」の読みがいよいよ欠かせない。

① 書き込み読み

書き込む内容はいろいろあっていい。

「あの本を読め」と書名が記されていたり、読んだ日時が記されていたり、も。

② ライン引き読み

ラインに限らず○△×などいろいろな記号を付しつつ読む。今、『三色ボールペンで読む日本語』（齋藤孝 角川書店）ブームだが、これも「ライン引き読み」の一つ。

以上、「書き込み読み」「ライン引き読み」は「砂時計型」読みの確実な方法であるが、読む場所が限定され筆記具の携行が欠かせないのが不便。その点、次の方法は場所も選ばず記具も不用。

③ 頁折り込み読み

必要なことが記されている頁の角を折り込みながら読み進める。ただし文庫本や新書版使用の用紙は薄く、日が経つと折り込み箇所の識別が不可。再読、再々読をしようとするといらいラさせられる。

④ ポストイット貼付読み

筆者が採っているのは今のところこの方法。必要な部分にポストイットを貼付しながら読み進める。ノリ部分の性能がよくなったので、再読、再々読の際、何回でも貼付し直しが効くのがありがたい。

効 用

「砂時計型」はまず面白くない。退屈である。眠気がしてくる。しかし、タイプ2「キャッチャーミット型」を既に

身に付けた読者なら、「砂時計型」の読みの必要を実感しているの、ここは難なく克服できる。そのことよりは、文章法や表現法が獲得できるところに「砂時計型」読みの醍醐味を見出すであろう。これまでのタイプ1「つんどく型」、タイプ2「キャッチャーミット型」の読みで手に入ったのは、文章内容・表現内容だけであった。文章法や表現法、つまり自己表現のための有効な方法としての具体的な表現形式や表現の手立て、手順の、いろいろな獲得にまでは至らなかったのである。「砂時計型」は自己表現のための方法の獲得に通じていく読みであり、情報のよき発信者としての力量を積んでいくこととなる読みである。

レベル

レベル3「砂時計型」は、レベル2レベル「キャッチャーミット型」の前に位置づけよというのが大方の主張である。小・中・高等学校の国語教室を見よ。読解だ精読だと称される「砂時計型」読みがなんと12年間も連綿と続くのだ。これが大量の読書嫌いを生み出す元凶である。しかし、レベル2「キャッチャーミット型」の後にレベル3として「砂時計型」の読みを位置づけると、情報のよき受信者育ちから情報のよき発信者育ちへの道が開かれる、となるのだ。

なぜか。「砂時計型」の読みは、発信された内容の受信だけではなく、発信者の立場や意図、伝え方についての情報までも受信するからである。次のように。*1

- (1) なんのための発信か、その目的・目標を。
 - (2) どこからの発信か、受信者との位置関係を。
 - (3) どんな手立てや手順を駆使しているか、伝え方の工夫を。
- ① 題名の付け方を。
 - ② 見出しの付け方を。
 - ③ 図・表・写真・イラストに付した標題の付け方を。
 - ④ 文の構成の仕方を。
 - ⑤ 段落の構成の仕方を。
 - ⑥ 文体の工夫の仕方を。
 - ⑦ 割り付けの仕方を。

タイプ4・冷蔵庫型……………レベル4

様 態

レベル4「冷蔵庫型」は「砂時計型」と同様、多読には不向き。ここでもレベル2の「キャッチャーミット型」を身につけておくことは基本。情報の発信者たらんことを確かに自覚し、よき発信者となることを始めから目指して読む。発信に必要な材（発信内容・発信方法）を蓄積し保存する読みである。

方 法

蓄積し保存するに足るとなる材にいかにして行き当たるかが先決。それはほとんどレベル3の「砂時計型」読みのありように懸かっている。

① メモ型読み

市販のメモカードもあるが、独自に工夫したのを作成、活用的人也多い。筆者は面倒が先に立って長続きしなかった。

② 抜粋コピー型読み

コピーが手近に安直に使える昨今だからこそこの方法。コピーする箇所にポストイットを貼付するので「ポストイット貼付読み」といってもいいが、その箇所をコピーして、活用しやすく保存するところがミソ。

③ 原本集積型読み

筆者の今はもっぱらこれ。②「抜粋コピー型読み」は、結局はコピーしたのをまた取り出して目を通さねばならず、それならば定めた場所に積み上げておいた原本を手にはすれば済む。その際、余分な所に走らせた目が、思わぬ宝を発見する、という余録にも預かれる。

効 用

自分の読書のありよう、多寡、広狭、傾向、偏りなどが否応もなく自覚させられる。それゆえに向後手にしたい本のリストづくりなどを思わずやってしまう。タイプ1「つんどく型」の効用として「己の人生を日々好日とすることが可」といっておいたが、このリストづくりなど日々好日のささいな具体の一つ。

レベル

レベル4の「冷蔵庫型」読みに至って、読みは、目的としての読みから手段としての読みへと変換させられる。レベル1「つんどく型」、レベル2「キャッチャーミット型」、レベル3「砂時計型」の読みは、読むこと自体がそのまま読むことの目的であって、読み終わったその時点で読みは完結である。に対してレベル4「冷蔵庫型」読みは、読むこと自体は何事かを為すための手段であって、読み終わったからといって読みは完結ではない。為すこととした何事かの達成を見るまで、多種多様な材の蓄積保存が進行する。

タイプ5・味噌漉し型……………レベル5**様 態**

タイプ4「冷蔵庫型」は、発信者たらんことを確かに自覚した読み。その自覚に立ってまさに発信者となつての読みをするのがこのタイプ5「味噌漉し型」。自分の発信に必要な養分のみをしっかりと漉し採る。粕は捨てる。漉し採る読みだから、速読では無理。

方 法

漉し採る、つまり他者のものであった情報を自家菜籠中のものにする。自分の発信目的・目標の達成に沿うように受信した情報を再構成するのである。再構成の読みにはいろいろな方法がある。

① 図式化読み

図式化されていない情報を図式化してみる読み、図式化されている情報を再度図式化してみる読み、と二通りある。図式化は、図式を構成している部位のそれぞれに意味を付与する読みだが、逆にそれぞれの部位の方から主張してくる意味をどう汲み取り、どう位置づけるか、ここの読みが面白い。

② 事例入れ替え読み

提示されている事例を自分の発信目的・目標に適う例と置き換えつつする読み。

③ 段落並べ替え読み

段落の並べ順は思考手順のアウトラインであ

り、どのように思考を構築したか、その骨組みである。そのような形で提示された思考法を、自分の発信目的・目標に適うように組み替えつつ進める読み。

④ 文並べ替え読み

文の並べ順はそのまま思考のプロセスのディテールである。提示されたその思考法の詳細を、自分の発信目的・目標に適うように組み替えつつ進める読み。

⑤ リライト読み

re-writeする読みである。勿論自分の発信する目的・目標に即してリライトする。具体的にはこれまで述べた①～④の読みを集積していけばリライトとなる。

効 用

リライト読みが中・高等学校の国語教室で、少しずつではあるがようやく始まった。国語教室も理解人間育てから表現人間育てへと変換しだしたのである。このことの必要と大事さを主張したのは倉澤榮吉氏だが、理解人間育ては体制従順型に向かい、表現人間育ては自主自立する主体的人間育てに向かうとは氏の至言である。*2

レベル

「味噌漉し型」はレベル5とした。レベル5といえば、いかにも難しそうだが、すぐれた国語教師の経営する国語教室では小学校段階からなされている。この型の読みを本気でやることにするかどうかは、それを必要とするほどの強烈な発信目的・目標が持てるかどうかにかかっている。

タイプ6・シェイカー型……………レベル6**様 態**

シェイカーを振って異種のを混合してつくられるのがカクテル。自分の発信する情報もまた同様に創られる。肝心なことは異種のをいかに混合するかである。タイプ2「キャッチャーミット型」を「軽薄にして雑読乱読」と称したが、ここにきてこの読みが役立つこと大となる。

方 法

「続け読み」「比べ読み」という方法が代表的。筆者にこの読みの有効性を実感してくれた方は西郷竹彦氏(*3)。何を続け、何を比べるか、この何をの選定が難しいが、ここがしっかりしていると、その成果には目みはらせられる。

① 続け読み

これはアナログ型の読み。テーマ・主題・課題等の拡充、発展を図るのに有効。何の次に何を続けて読むことにするかによって、得られる成果は一樣ではない。

② 比べ読み

これはデジタル型の読み。この読みの趣旨は「続け読み」と同じだが、その成果は比べる対象をどれだけ多様にセットできるかに懸かっている。その方法も、左右を比べてとか、上下を比べてなどの単純なものから「たすき掛け」など、複雑に錯綜していく高度なものまである。

効 用

アナログ型には長じているがデジタル型は得手でない。という日本人の傾向を考えれば「比べ読み」はもっと試みられてよい。アナログ型は次のことをよくする。一つは、対象の分析を即物的に進め、事実をランダムに析出する。よって分析・析出作業の結果は質量ともに多量で多様となる。二つは、分析・析出に対する総合・統合という、相反する二つの作業を同時にフリースタイルで進行させることができる。その結果得られるカクテルは豊穡となる。

レベル

「シェイカー型」をレベル6としたのは、この読みが難しいからではなく、日常的に必要とされることが少ないからである。しかし、いったん問題解決、課題達成の要に迫られると「シェイカー型」は威力を発揮する。そして面白い。福岡県国分小の6年生が、1作品を3ブロックに分割し、それを3作品合わせて9ブロックを「たすき掛け」読みし、中学生レベルの成果を上げた実践がある。*4

注

- * 1 詳細は拙稿『書き手の立場・意図を考えて情報の伝え方を評価する学習指導』（共著『生きてはたらく国語の力を育てる授業の創造』第10巻ニチブン出版2000年）参照されたい。
- * 2 『倉澤榮吉国語教育全集』第5巻（角川書店1988年）参照されたい。
- * 3 文芸学者『西郷竹彦文芸教育全集』全34巻 恒文社1998年）がある。
- * 4 太宰府市立国分小学棟発表会 2002. 11. 9（土）

すぐ入手できる主な参考文献

- ① M・アドラ、C・ヴァン ドーレン共著『本を読む本』ブリタニカ出版1978年
- ② 「図書」編集部編『私の読書』岩波新書 1983年
- ③ 大内兵衛・茅誠司他著『私の読書法』岩波新書1991年 42刷
- ④ 加藤周一『読書術』岩波現代文庫 2000年

センズベリ日本文化芸術研究所主催
長崎大学附属図書館協賛「国際古写真研究学会」
(於 ノリッジ・イギリス) 報告

長崎大学附属図書館研究開発室員

環境科学部 環境政策講座教授 姫 野 順 一

国際学会「真実の映出—19世紀の日本写真」

Reflecting Truth: Japanese Photography in the Nineteenth Century

Saturday 2nd November 2002

Lecture Theatre Norwich School of Art and Design, Duke Street, Norwich

*Organised by Sainsbury Institute for the Study of Japanese Arts and Cultures
in Co-operation with Nagasaki University Library*

11月2日、イギリスの古都ノリッジの芸術デザイン専門学校における講義室で、センズベリ日本文化芸術研究所に長崎大学附属図書館が協賛して、日本古写真の研究発表をおこなう国際学会を開催することができました。

センズベリ日本文化芸術研究所はイギリス人なら誰でも知っている大スーパー「センズベリ」のオーナーであるロバート&リサ・センズベリ卿夫妻が所長のニコル・ルマニエさんに資金援助して1999年に創設された日本の文化と芸術を研究する研究機関です。オフィスはノリッジ大聖堂の敷地内にあります。この研究所には同じくノリッジにあるイースト・アングリア大学およびSOAS(ロンドン大学東洋アフリカ学部)の日本芸術文化の研究スタッフが参画しています。またイースト・アングリア大学のセンズベリ絵画センターには、卿夫妻の寄付による世界中から集めた絵画コレクションが展示されています。今度長崎大学附属図書館が協賛した国際学会は、研究所における第二回目の取り組みです。第一回目は、2000年にコロンビア大学のドナルド・キーンさんなど世界の日本研究者5人を招いて開催され、日本文化に関するこの国際研究学会の成果は『日本芸術の生誕と再生』(Birth and Rebirths in Japanese Arts, Ed. by Nicole Coolidge Rousmaniere, Hotei Publishing, Leiden)と題されて2001年に刊行されています。

今回の第二回目は「日本の古写真研究」がテーマに選ばれました。ロンドン在住の日本古写真の研究者であるセバスチャン・ドブソン氏の仲介で、日本における代表的な日本古写真の所蔵機関であり、インターネットで世界に日本の古写真を発信している長崎大学がこのセンズベリ日本文化芸術研究所の主催する国際古写真研究学会に協賛することとなりました。私は図書館長の挨拶を携えて当日学会に参加いたしました。会の様子は直後の4日に図書館の喜多専門員に送ったメールに臨場感がありますので、文法や間違い箇所を訂正して紹介いたします。

「これを今、Norwichの700年続くInnのMaids Headというホテルで書いています。先ほど、ようやく苦労してホテルからダイアルアップでNiftyに繋げることができました。一昨日、長崎大学附

属図書館がセンズベリ日本文化芸術研究所に協賛した国際古写真研究学会は大成功でした。観客は約130人ほどで、多くはこの研究所が毎月開いている公開講座の受講生であるNorwich市民です。ロンドンからも参加が多く、また竹内駐英公使もお見えになっていました。所長のルマーニエさんはニューヨークの別の大きな展覧会の準備で留守だったため、代わりに冒頭イースト・アングリア大学の学長経験者でナイトの称号を持つエリザベス・エスティープ・コルさんが主催者として挨拶をしました。そのあと安河内図書館長からの挨拶を披露させていただきました。

学会は午前中、Sebasitian Dobsonがベアトの日本における活動を紹介し、オーストラリアからきたLuke GartlanがStillfriedの日本での写真を紹介し、日本から来た元朝日新聞社写真部の後藤和雄さんが「欧州で発見した写真」をビデオで紹介しました。午後はアメリカ、シンシナティ大学のMichiko Hirayamaさんが古写真に見る「修養」と「教養」について報告し、東大の木下直之さんが「遺影考」ということで、死者の肖像写真に関する考察を報告し、アメリカのダマースト大学からやってきたAllen Hockleyさんが19世紀末の日本古写真について、これらが「フジヤマ」、「ゲイシャ」、「ハラキリ」という日本イメージの起源であるという面白い報告をしました。最後に地元で会場にもなっているNorwich School of Art and DesignのRichard Denyerさんが、初期のイギリス写真に関する報告を行いました。私も、九州（日本）の古写真史に関するペーパーを準備し、最後に報告する予定でしたが、途中アラームが鳴り止まないと言うハプニングがあって時間が窮屈となったので、これは取りやめました。代わりに、会終了後のレセプションで長崎大学のデータベースをご披露し、解説しました。こちらの方は、インターネットへのアクセスがダイヤルアップだったせいもあり、超高精細の方は披露できずに残念でした。

ということで、会は成功裏に終了し、皆さんから共通に長崎大学のデータベースを積極的に活用していると聞かされました。また公使はじめ、皆さんから長崎大学に対するねぎらいの言葉をいただきました。昨日『古写真研究』第2号の英文部分の編集会議をもち、原稿の編集内容と出版のスケジュールを確認しました。』〔2002年11月4日 At Norwich〕

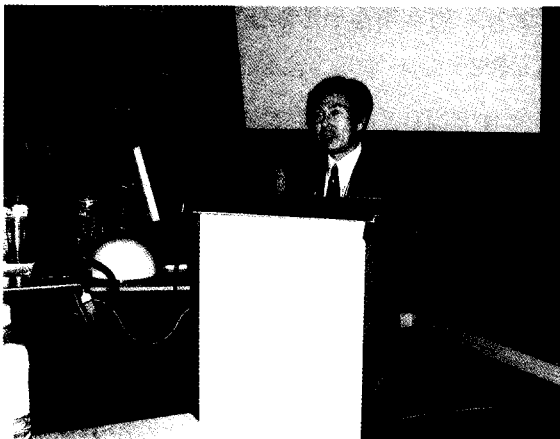
この学会はささやかながら世界各地の日本古写真研究者が初めて一同に会する機会となりました。この学会で報告された内容は今後の日本の古写真研究にとって一里塚となるものです。この成果の公表は今後の古写真研究の「シード」となります。長崎大学附属図書館では、協賛の一環として、ここで発表された報告を不定期で発行している『古写真研究』第2号に収録し2003年3月末に刊行する予定です。これは英文として収録されるものですが、今後この研究誌をきっかけに内外で古写真研究のネットワークの輪が広がることを願っています。

今学会中、フランスのLille近くのHaubourdinから参加したフランス人の日本古写真コレクターでAssociation France Japon Nordを主宰しているジョゼフ・デュボアさんにもお会いでき、研究協力を約束できました。またフランスのパリのギメ東洋美術館には、まだ未整理の日本古写真が大量に収蔵されているようです。世界各地から集まった研究者からはサンフランシスコのコレクターであるJerri Stanoffさん、お父さんが有名な詩人であるニューヨーク在住の日本古写真研究者Christine

Guthさん、それにハーバードの大きな古写真コレクションであるLongfellow Collection、London やイギリス国内のコレクターなど多くの情報を聞くことができました。

2000年に長崎で蘭学歴史研究国際シンポジウムを開催し、ライデン大学の日本研究者を多く招待する機会がありましたが、その折オランダの写真研究者ムースハルト氏は日本古写真研究の国際ネットワーク作りの必要を強く訴えていました。このライデン大学と長崎大学との間には研究協力の太いパイプがあります。また長崎大学は、現在インターネットで日本の古写真を世界に発信していますが、これを見たアメリカ、ボストンのマサチューセッツ工科大学（MIT）の宮川教授を通じて、ジョン・ダワー教授とのプロジェクト「古写真におけるアメリカと日本の異文化交流」（2003-4年）での共同研究のお誘いを受けています。ジョン・ダワーさんは2000年に『敗北を抱きしめて』（*Embracing Defeat*, W.W.Norton and Company/The New Press, 1999、『邦訳』（上）・（下）岩波書店2001年）でピューリッツァー賞を受賞したことで有名ですが、ダワーさんは異文化理解に日本の古写真が役立つことを早くから見抜いていたようです。

このように、長崎大学附属図書館が科学研究費補助金により開発しインターネットで世界に発信した情報が「シード」となり、国際的な日本古写真研究のネットワークの「華」が咲いていることを大いに喜ぶと思います。そして、長崎の地域特性を生かしたこのような長崎大学の研究資産を拡充し、今後ますます世界に向けて発信することを目指せないかと思案しています。（この学会の内容は、地元ブロック誌である*Eastern Daily Press*で報道されました）



（会場での挨拶）



（参加者）

30 FEATURE

Eastern Daily Press, Saturday, October 15, 2002

A new view of JAPAN

A conference organised by the Sainsbury Institute will enlighten visitors to the joy of Japanese photography and forge stronger links between Norfolk and Japan as a result. RACHEL BANNHAM found out more.

For the first time, Japan opens its doors to the world, showcasing technology, culture, and the atmosphere of the country.

A conference in Norwich is going to look at the history of a little-known different perspective, examining the role of photography in the past. Rachel Bannham, assistant editor at the Norwich Evening News, told how the idea for the conference grew out of the input of the British Museum, who is part of a Japanese initiative to the Institute, and did a lecture on the subject to Norwich earlier in the year.

"A lot of people will have noticed it has been around for a long time," said the editor. "It has been around for a long time, and very few people in Japan had ever seen a camera before the war."

Photography was brought to Japan towards the end of the 19th century, as the first Japanese photographers emerged.

The Sainsbury Institute Library has a large collection of the old photographs as it acquires, which is open to the public.

These photos, which date from the late 19th century, are now being displayed in the Sainsbury Institute Library.

The Sainsbury Institute Library has a large collection of the old photographs as it acquires, which is open to the public.

These photos, which date from the late 19th century, are now being displayed in the Sainsbury Institute Library.

The Sainsbury Institute Library has a large collection of the old photographs as it acquires, which is open to the public.

These photos, which date from the late 19th century, are now being displayed in the Sainsbury Institute Library.

Japanese photography is a relatively new art form, but it has a long history. It is a blend of traditional Japanese art and Western photography.

The conference will be an opportunity for the public to learn more about the history of Japanese photography and the role of photography in the past.

The Sainsbury Institute Library has a large collection of the old photographs as it acquires, which is open to the public.

These photos, which date from the late 19th century, are now being displayed in the Sainsbury Institute Library.

The Sainsbury Institute Library has a large collection of the old photographs as it acquires, which is open to the public.

These photos, which date from the late 19th century, are now being displayed in the Sainsbury Institute Library.

The Sainsbury Institute Library has a large collection of the old photographs as it acquires, which is open to the public.

These photos, which date from the late 19th century, are now being displayed in the Sainsbury Institute Library.

The Sainsbury Institute Library has a large collection of the old photographs as it acquires, which is open to the public.

These photos, which date from the late 19th century, are now being displayed in the Sainsbury Institute Library.



PROFESSOR JOHN DOWER
A CHANGING WORLD: A picture from the Japan of the late 19th century.

For more details and tickets contact: Rachel Bannham, Sainsbury Institute Library, 100 High Street, Norwich, Norfolk NR1 1JE. Tel: 01603 612345. Email: r.bannham@sainsbury.ac.uk

The Sainsbury Institute Library has a large collection of the old photographs as it acquires, which is open to the public.

These photos, which date from the late 19th century, are now being displayed in the Sainsbury Institute Library.

The Sainsbury Institute Library has a large collection of the old photographs as it acquires, which is open to the public.

For more details and tickets contact: Rachel Bannham, Sainsbury Institute Library, 100 High Street, Norwich, Norfolk NR1 1JE. Tel: 01603 612345. Email: r.bannham@sainsbury.ac.uk

The Sainsbury Institute Library has a large collection of the old photographs as it acquires, which is open to the public.

These photos, which date from the late 19th century, are now being displayed in the Sainsbury Institute Library.

The Sainsbury Institute Library has a large collection of the old photographs as it acquires, which is open to the public.

These photos, which date from the late 19th century, are now being displayed in the Sainsbury Institute Library.

The Sainsbury Institute Library has a large collection of the old photographs as it acquires, which is open to the public.

図書館サービスプラン

附属図書館では、昨年度の利用者アンケートに基づき、図書館利用者に対するサービス向上を図っているところですが、今回は中央図書館を中心に、その一連の計画と改善の一部をご紹介します。

書庫内環境の整備

1) 従来、書庫内の資料の排列（資料を書架に一定の順序に整然と並べること）などの書庫内環境の整備には、心がけてはありましたが、そのために十分な時間をかけることができませんでした。

そこで、今年の夏3日間、図書館を閉館して、全職員総動員で、新書庫内の図書資料のシェルフリーディング（資料を請求記号順に整列すること）を行いました。その際、さらに、重複資料等の整理に着手し、書庫内の利用環境を向上させました。

2) 雑誌書庫内階段の照度を上げるための**照明器具の取り替え**・階段での移動の安全性を確保するための**階段の滑り止め工事**を実施しました。

3) これまで不足していた、**書庫内閲覧席**を各階に増設・新設しました。

4) 書庫内の開閉が困難なガラス窓の修理を行ない、書庫内**換気**が充分できるようにしました。

もちろん、書庫内閲覧席で資料をゆっくりと閲覧するには、快適な空調が必要ですが、これには、予算面の事情もあり、長期的な計画をたてて、可能な限り少しでも快適な環境を実現したいと考えています。

5) そのほか、書庫内書架へのアクセスを容易にするための、説明・サインを改善しました。

書庫内資料の活発な利用は、図書館ガイダン

スでも強調しているところです。

つまり、書庫を資料が冬眠した倉庫ではなく、快適に利用すべき場所として**生きた書庫**を目指すものです。研究室貸出資料が図書館へ返却されてからも、利用しやすい環境を作り出します。

閲覧室の環境の整備

1) 研究室で不要となった大型書架3連を譲り受け、**開架図書閲覧室と参考図書閲覧室に書架を増設**し、書架上に適切なスペースを維持したうえで、それぞれ、開架に並べる資料をより一層利用しやすいように配架しなおしました。

2) 図書館全体、とくに、閲覧室全体の照明の照度向上をはかり、時間外開館中でも快適に閲覧できるようにするために、予算との兼ね合いも検討して、すこしづつ館内環境の向上に努めていきます。

さらに、経年経過した閲覧席・閲覧機の更新も予算の範囲内で、順次、実施したいと計画しています。

図書館サービスの向上

1) 書庫利用時間の延長を試行しています。従来、9時～17時のところを、**9時～19時**と延長して平成14年12月より今年度いっぱい試行します。

これにより、5時限の授業終了後にも、学生・院生の方の書庫内利用が可能となりました。試行結果に基づいてさらなるサービス向

上を検討していきます。

図書館ガイダンスの高度化

2) 研究室貸出資料の共同利用を推進するため、研究室所蔵資料を従来以上に利用しやすいよう、図書館が利用者と研究室との連絡をサポートするようにしました。まだ、試行中ですが、今後も共同利用の推進に向けて、いろいろな案を検討していきます。

全館的整備

今回は中央図書館の整備・改善を中心に取上げていますが、上記の整備は、もちろん、中央図書館だけでなく、各分館でも、キャレルの増設、事務スペースから書架スペースへの振り替え、書庫内資料の整備等全館的な対応で進めています。

また、一方では、上記のハード面に加えてソフト面での電子図書館化への対応も図っています。こちらのほうも、全館的体制で整備しています。

ILLサービスの電子化・国際化

ILL（相互貸借）サービスにつきましても、従来から要望が高かった、Webからの申込サービスを開始しました。（各キャンパス対応）

さらに、NII（国立情報学研究所）のグローバルフレームワークに参加することにより、海外へのサービス依頼への本格的対応が可能となり、円滑な情報入手が可能となります。（文教キャンパス試行中）

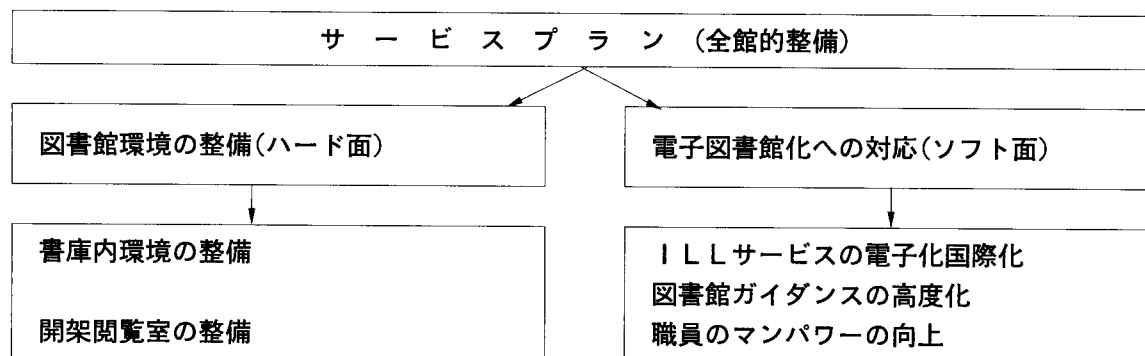
また、図書館の学術情報コンテンツを効果的に利用するための図書館ガイダンスも強化・高度化します。本年度前期には、新入生を対象に開講された、全学教育教養セミナーにおいて図書館における資料の収集ガイダンスを、全館的体制のもと実施しましたところ、新入生のうち、かなりの高い比率で参加頂きました。入学早々の段階で、図書館および図書館資料の利用法を知っていただくことは、今後の発展的な学習を可能とするために、大変重要なことと図書館としても考えております。

学年が進んで卒業論文作成、さらには、大学院生となって研究をする際にも、今後とも、図書館資料に関して電子化資料が拡大する状況のもと、学術情報を円滑に収集できるよう、すこしずつレベル・アップしたメニューを準備して、在学期間の様々な段階に対応したガイダンスを実施する予定です。

この目標を達成するために、ガイダンスのメニューも検討しながら、より効率化、より高度化する努力を行なっています。

職員のマンパワーの向上

最後になりましたが、大学の独立行政法人化も控えて、ソフト・ハード面の整備はもちろんですが、図書館職員のマンパワーのスキルアップ、これが実は最も重要な問題と認識し図書館においても努力しているところです。



（参考調査係）

外部評価の実施

附属図書館では、今後の図書館のサービスや活動の参考とするため、平成14年11月28日（木）外部評価を実施しました。

外部評価委員には佐藤俊英本学名誉教授（元館長）・B.パークガフニ長崎総合科学大学教授・同大学図書館長）・宇土行良（活水女子大学教授・図書館学）・木下誠人（長崎県立長崎図書館長）の4名を委嘱しました。

事前を送付された長崎大学附属図書館に関する多くの資料をベースとして、外部評価委員は、午前中は、経済学部分館・医学分館の順に実地視察を行い、午後からは、中央図書館内を実地視察しました。

引き続き、会議室で、学内委員である安河内館長・中村医学分館長・柴多経済学部分館長・池永文教地区委員・三浦事務部長が出席し、各課長・全係長の陪席のもと、外部評価委員から質疑が寄せられ、学内委員が中心となって説明回答しました。

当日の成果は、印刷物として刊行し、今後の図書館サービスの展開に生かされることになっています。



（外部評価審査風景）

分館からのお知らせ

・医学分館からのお知らせ

医学分館貴重図書資料の遡及入力を行いました。

現在、貴重図書資料は約3000冊、17世紀から19世紀にかけての資料が主です。

貴重図書室内には、戦禍を逃れた長崎医科大学時代の貴重図書資料、戦後寄贈を受けた東文庫、及び浅田文庫等があります。シーボルトのFauna Japonica, Flora Japonica等の和洋図書資料、和漢古書・漢方医学書等です。

国内にない資料も多数あり、早速他機関から照会がきています。

一度、貴重図書室を見学なさいませんか。ご案内いたします。

・経済学部分館からのお知らせ

かねてより利用者から要望の多かったDVD・ビデオを視聴できる専用のテレビを一階情報検索コーナー横に設置しました。視聴できるソフトにつきましても電子立国日本の自叙伝（NHK）、日本の企業家群像（丸善）、映像の世紀（NHK）等いろいろ所蔵しています。どうぞご利用ください。

また、二階自由閲覧室にキャレルを新設しました。

皆様のご利用をお待ちしています。



10月25・26日（金・土）の両日、工学部社会開発工学科土木情報システム研究室と合同で、長崎県高度情報化推進協議会主催の「第4回ながさき ITフェア」に参加し、これまで当館が構築してきた「幕末明治期古写真コレクション」「超高精細古写真画像」「グラバー図譜」のデータベースを来場者に紹介しました。

このフェアは、ブロードバンド時代に対応した最新のマルチメディア機器の実演展示を行い、県民の方々に最新のIT技術に触れ、体験してもらおうというのですが、図書館が参加するのは初めてのことです。

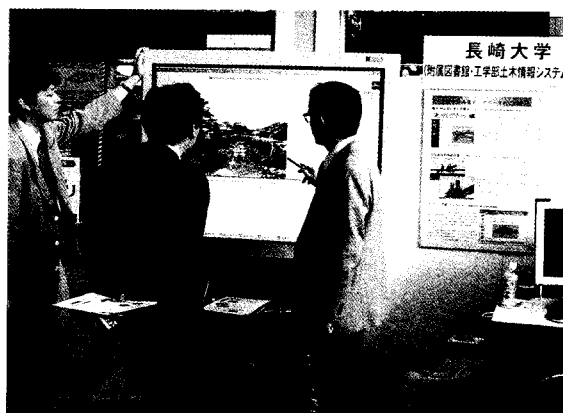
会場では、高速通信システムや新しい携帯電話、あるいはインターネットを使った新開発事業といったプレゼンテーションが多い中で、図書館は事前にパンフレットとA1サイズのパネルを準備し、情報システム系の二人と交代で口頭説明にあたりました。

来場者には当館所蔵の古写真について知っているという人も多く、リコー製メディアサイトの大型ディスプレイに写し出された古写真や魚図に多くの方々が足を止め、データベースの検索方法等の説明に耳を傾けられ、写された長崎風景の時代背景について話し込んだり、データベースへのご意見や期待等も寄せられるなど、大変好評を得ました。

展示ブースや大型モニター前に一般の来場者がいなくなると、フェア参加の企業や団体の関係者、また広告業関係者や観光ボランティアガイドの人などが来られて、データベースの構成や開発目的、さらに図書館からの情報発信等について質問されるなど、地域資料としての古写

真や魚図の利用にも強い関心を寄せられ、これまでの古写真パネル展示会等とはまた違う反応がありました。

今回のフェア会場は、多くの人が行き交うJR長崎駅改札口前の「かもめ広場」ということで、これから市内散策に出かけるという他県からの観光客や外国人旅行者も足を止めて、明治の日本各地や古き良き長崎の光景を楽しみ、帰ったら自分のパソコンで検索してみるとの感想もいただきました。



人が行き交う雑踏の中に立ちずくめで説明するのは初めてで、3人とも腰や声が少し変になってしまいましたが、結構面白い体験でした。ついでながら、かもめ広場の天井に掲げられた150インチの超大型モニターに、長崎の超高精細古写真画像を映してみたいと思ったのは小生だけではなかったでしょう。

なお、工学部土木情報システム研究室からは「ステレオ古写真の3次元表示」や会場と長崎大学を結んでの「構造物振動及び画像の実時間遠隔モニタリングシステム」の展示紹介が行われ、こちらも多くの方の関心を集めていました。

（専門員）

平成14年度後期 図書館ガイダンス開催中

附属図書館では、昨年4月から開始した図書館ガイダンスを半期ごとにメニューを見直し検討してきましたが、平成14年度後期として下記のメニューを実施しています。

- ☆電子ジャーナル検索コース
- ☆情報データベース検索コース
- ☆雑誌・新聞記事検索コース
- ☆図書検索コース
- ☆中央図書館ツアーコース

授業の合間や休講の際に、おひとりでも、あるいは、ゼミの仲間とともに参加されて、卒業論文作成・ゼミでの発表・実験研究の資料収集やデータ収集などにお役立てください。

インターンシップの受入

附属図書館の社会参加・社会貢献の一環として、今回初めて、インターンシップの受入を行いました。実施期間は、平成14年の8月5日（月）から9日（金）までの5日間で、図書館では、長崎県立シーボルト大学から2名、活水女子大学から1名計3名の女子学生を研修生としてを迎えました。

初日の本部事務局での概要説明・施設見学に引き続き、翌日から図書館での業務に関する説明を受けたのち、資料の受入部門である資料管理係、図書館カウンター部門である資料サービス係および参考調査係に各1名の配属となりました。

実際に、資料の受入業務、カウンターでの資料貸出返却業務、開架書架の整頓（シェルフリディング）作業、職員と一緒にカウンターでの参考業務など図書館実務を体験してもらいました。一日一日業務処理が的確になって、参加者にも収穫があったと確信しました。

長崎大学オープン・キャンパス にともなう図書館の公開

長崎大学オープンキャンパスの開催にあわせて、昨年初めて図書館の公開を実施したのに引き続き、今年度も平成14年8月20日（火）に実施しました。

本年度は、図書館3階のブラウジングコーナーでは、長崎大学学報の表紙を飾った当館所蔵資料を撮影した学報の表紙8点を拡大して展示しました。

また、図書館2階の情報処理センター設置端末では、インターネットを利用して、長崎大学に関する情報検索や図書館資料の検索などを、未来の長崎大学生に楽しんで頂きました。

長崎大学への入学を希望する高校生に、大学の一翼を担う図書館に関する理解と長崎大学に関する具体的イメージをつかんでもらえた様でした。（下の写真は来館した高校生）



高等学校PTA見学会

本年度9月～10月に、各地の高等学校PTAから長崎大学を見学に来られた際に、当館の見学もしていただきました。

参加校は佐賀県立白石高等学校、熊本県立八代高等学校、宮崎県立宮崎北高等学校の3校で計約90名が見学されました。

館内見学が中心で、サービス課各係の役割及び館内資料に関する説明がありました。

他の一般の図書館を利用する際には、あまり利用することがない書庫を見学したり、長崎大学附属図書館が誇る古写真やグラバー図譜に関する説明を受けるなど、図書館および長崎大学に対する理解を深めていただきました。

"1冊当たり158円"**-平成14年度大学図書館職員長期研修報告-**

資料管理係 平 林 昇

図書館情報大学としては最後となる？記念すべき長期研修を7月8日から3週間に渡って受講させていただいた。この研修に関する原稿を求められ振り返って見ると、毎週のように台風の心配をしていたこと、「真夏の死のロード」と呼ばれる昼食抜き覚悟の施設見学のこと、今年一回限りかもしれない幻のプレゼンテーション演習¹⁾のこと、そしてなにより楽しく過ごした研修生仲間の顔など、さまざまなことが懐かしく思い出されてくる。

さて何について書こうかと思った時、頭に浮かんで来たのが研修のテキストで紹介された上記の数字である²⁾。今回はこれをもとに述べさせていだきたい。

この数字が何を意味しているかお分かりだろうか？実は、本を1冊館外へ貸出すのに懸かる費用なのである。他には、予約506円/1冊・館内閲覧254円/1人・返却督促1,651円/1件・所蔵調査821円/1件・事項調査4,753円/1件、といったものがあげられている。これらは某政令指定都市における図書館サービスのコストであり、そのまま大学図書館に当てはまるものではない。しかしながら法人化を目前に控えた現在、こういった具体的な金額を目の前に提示され、いやがおうでも興味を覚えずにはいられなかった。

文献複写を例にとって、この問題についてももう少し考えてみよう。現在複写料金は1枚35円と決められている。ということは、仮に時給単価1,000円の人がこの業務を行ったとすると、1枚当たり2分6秒でILL受付から郵便発送までの全てを処理しなければならないということになる³⁾。実際には1件当たり1ページということは稀で、まとまった場合には多少時間的ゆとりが生まれる。だが担当者の時給単価が上がれば、先の計算式で求められる時間はさらに短くなるということを忘れてはならない。

さて赤字を出さないためにはどう対処すればよいであろうか？まず考えられるのは1枚当たりの単価を採算の採れるところまで引き上げる

ということである。これが最も簡単な方法ではある。ただ、他機関よりも高い料金の所へはまず依頼が来ないであろう。それではと、「当大学では採算が合わないため文献複写の受付は廃止しました」などということは、相互互惠の精神に反し許されるものではない。そうなると考えられるのは作業効率を上げるか人件費を減らすかになるであろう。作業効率を上げるのには自ずから限界があり、現実的には後者が選ばれるに違いない。そうすると先の計算から考えて、定員内職員では採算が合わず、非常勤職員でもどうかということになる。結局、一番費用対効果が上がるのは外注ということになってくる。

ここでは一例として文献複写について見て来たが、他の一般的業務についても同様のことが当てはまるのではないだろうか？事実、ある先鋭的な私立大学では図書館員1名を残し、すべての業務を外注化してしまったと聞く。しかもそうした結果なんら問題は発生していないそうである。こうなってくると図書館職員の存在自体の意義が問われてくる。

もちろん図書館は営利企業ではないし、採算を抜きにしたサービスが基本であることはいうまでもない。しかしながら、法人化後は最も人件費のかかる管理職を筆頭に、一般定員内職員、さらには非常勤職員も含めてコストを意識した人員配置・業務配分が進められていくことは間違いない。各人は自己研鑽しアウトソーシング化できない何かをやっていかなければ図書館員として生き残っていけない。そういう時代がもうそこまでやって来ているのである。

長期研修に参加して、講義やグループ討議、宿舎での研修員どうしの情報交換(実はこれが非常に有益であった)などを通じて、上記のようなことをひしひしと感じとった。日頃の実務を離れて、このようなことを考えさせてくれる場、それこそが"大学図書館職員長期研修である"ということを最後に付記して今研修報告の結びとしたい⁴⁾。

1) 発表内容は「不動産購入の仕方」、「第1回長期研修同窓会はどこでやるのか」、「国立オリンピックセンターとウイークリーマンションの違いについて」、「巨人・クラシック・図書館」というようなユニークなものであった。

2) 「大学図書館の運営」慶応義塾大学 文学部 高山正也 教授

3) $3,600 \text{秒} \times (35 \text{円} \div 1,000 \text{円}) = 126 \text{秒} = 2 \text{分} 6 \text{秒}$

ここでは計算を単純化するため、電気・紙・パソコン機器代等の諸経費は除外して考えた。

4) 長期研修の日程・講義要綱など詳しい内容については、図書館情報大学の以下のホームページ上で参照可能である。
<http://www.ulis.ac.jp/library/Choken/2002/>

人 事 異 動

臨時的任用期間終了

9月14日付け (退職) 経済情報係 尼崎 由美子

育児休業期間終了

9月14日付け (職場復帰) 経済情報係 山本 知美

図 書 館 日 誌

- 8月20日(水) 附属図書館組織等評価委員会
30日(金) 第50回九州地区医学図書館協議会総会(於;久留米市 久留米大学 山崎医学
情報係長 下田電子情報係長)
- 9月13日(金) 施設見学(一橋大学)
28日(土) 長崎県大学図書館協議会見学会(長崎ウェスレヤン大学図書館・長崎国際大学図書館
・アメリカ海軍佐世保基地内内図書館)
- 10月15日(火) 施設見学(熊本県立八代高等学校PTA)
17日(木) 施設見学(宮崎県立宮崎北高等学校PTA・教職員)
18日(金) 長崎県大学図書館協議会電子ジャーナル研修会
24日(木) 附属図書館係長会議
25日(金) ながさきITフェア出展(於;JR長崎駅かもめ広場 データベース公開)
- 11月11日(月) 第28回九州地区係長研修(於;福岡市 福岡合同庁舎 志波原資料管理係長)
平成14年度大学図書館職員講習会(於;京都市 京都大学附属図書館 宮崎
情報システム係員)
14日(木) 平成14年度九州地区国立大学附属図書館協議会実務者連絡会議(於;大分市 大分
大学 酒井電子情報主任)
18日(月) 平成14年度第2回附属図書館委員会
19日(火) 平成14年度九州地区国立大学附属図書館長懇談会(於;福岡市 九州大学附属図書
館 安河内館長)
平成14年度九州地区国立大学附属図書館事務(部・課)長会議(於;福岡市 九州
大学附属図書館 三浦事務部長 重里情報管理課長)並びに館長懇談会・事務(部・
課)長会議との合同会議
20日(水) 平成14年度九州地区国立大学附属図書館電子化推進連絡会議並びに九州地区国立大
学附属図書館人事担当事務(課)長会議(於;福岡市九州大学附属図書館 三浦事
務部長 重里情報管理課長)
25日(月) 附属図書館係長会議
28日(木) 附属図書館外部評価(実地調査)

長崎大学図書館報 図書館ニュースNo.87 2002年(平成14年)12月25日発行

編集委員会 委員長 森高 桂子

委員 金丸 明彦・志波原智美・塩塚 一枝・原田 一洋・山下 昭光

発行 長崎大学附属図書館 〒852-8521 長崎市文教町1-14

電話 (095) 847-1111 (大代表) HPアドレス <http://www.lb.nagasaki-u.ac.jp/>